

平成31年4月26日(金)

PTA 総会挨拶

今年度のPTAへのご入会、誠にありがとうございます。生徒たちへの支援組織といたしまして、学校運営への支援や進路開拓するための連携を積極的にしていただけることを心から願っております。総会の挨拶といたしまして、この機会であるので、保護者の皆さんに伝えてたいと思います。

学校で一番大切なのは、生徒の命であります。様々な危険が至る所にあるのが現実でありまして、そのリスク・マネジメントが学校としては大きな課題であります。

朝夕の通学下校時、自動車や自転車による事故、授業時の接触や捻挫・転倒・骨折等、様々な心的不安と情緒の不安定、SNSにかかわる生活の乱れや他者との関係悪化、進路や勉強への達成度の不満足等による圧迫、自己実現への不満とコミュニケーション能力の不足のストレス、とあらゆるリスクが存在しています。できうる限り、そのリスク回避に全力を尽くしますが、何かお気づきの点などありましたら、速やかに担任や学年主任、養護教諭等にご相談ください。

ある母親からこんな話を聞いたことがあります。3人の子を育てていく中で、毎日、「私より先に死んじゃだめ」と言い続けた。大人になって、その子たちがあるときにはその危険が近くに迫ったときもあり、そんなときに母親のその言葉で助かったことがあったと伝えてくれた。私の母親も、毎日、車に気をつけろと朝行きがけに声をかけます。86歳ですが、いつまでも息子は息子のようです。

何度かお話しさせていただいておりますが、一人一人にとって毎日の学校生活はいろいろなことが起きているはずです。そのなかで、決して楽しいことばかりではないはずです。苦しかったり、悲しかったり、人知れず悩むことはたくさんあるはずです。

しかし、「ああ楽し」と歌っている校歌の歌詞のとおり、そのように歌っていかうという意思がこの学校の校歌にはあると伝えています。その意味で「我ら」磐城高校生として繋がっていると思っています。その思いは、綿々とバトンリレーのようにつながっていっていると考えております。

伝えていくバトンをしっかり持って自分の持ち場を走っていただきたい。その年々の思いを生徒たちには積み重ねていただきたい。時間は流れるものではない。積み重ねるものだと考えます。大きな志を持って、前を向いて進んでいくための日々であることを心から願います。

慌てず、焦らず、あきらめず、明日を信じていくようにいつも伝えていきます。

また、どうしても、最終的には進路開拓の話がついて回ることもわかっております。

学習の成果とは、「基礎基本的知識・技能×思考・判断・表現力×戦略×時間×効率＝成果」という方程式であらわせると思いますが、最後の一日まで延びるのが現役生であります。目標がしっかりしていれば、はじめは思い通りにならなくても、12月を過ぎたところがらぐいぐい伸びる子もおります。先手をとることで、大量リードのままに進めることが大切ですが、全国大会ですので、最後の1秒で決することが通常です。

その意味で、知識・技能とともに考察力、判断力、表現力が求められるのであります。さらには、他のものとともに戦う共同する力や、他人の痛みを知る惻隱の情も必要です。そして、毎日の生活の中にある運動により蓄積される体力が最後にものをいうのです。

入試の制度も新しく変わってまいります。本年11月には、英語の資格試験における個人のIDが2年生と3年生に取得させてまいります。

また、本年度末の32年度入試において、センター試験への対応と二次対策の準備を5月から進めていく必要があります。私大入試においては、激戦が予想される場所です。特に、早大・慶大においては、他大学との併願の意識では合格できない難易度です。

理系は、国公立大学狙いを中心に、文系は国公立大学のどこをどのような戦略で狙うのか、私大の併願をどの大学にするのかを厳密に考えていく必要があります。得意科目の配点が高く、不得意科目の配点が低い大学を5日間隔で3校受けていくとか、受験料は同じでも、いろいろな制度で複数回受けることができるシステムを利用するとか、かなりの研究が必要です。

生徒たちには、様々な今の現状を伝えて、自分の判断をきちんとするように指導しますが、ぜひ、保護者も共有していただき、お子様の戦略を理解し、資金の面も含めて共闘体制を作り上げていただきたいと思います。

そこで一番寛容なことは、あまりせかさないということです。いろいろなことを自分で一生懸命に考えますので、よき理解者として聞き役をお願いいたします。学校での勉強、ラトブでの勉強、塾での勉強があるでしょうが、それぞれのリズムでどこかに偏っていかないことが大切です。まずは、授業を大切に、時間を守って、他人をリスペクトしていこうと伝えていきますので、傍らから見ていていただきたいと思います。

そんな生徒たちを教職員は組織として心から支えて参ります。3者面談等でそれぞれの今を共有しながら、それぞれの戦略を支えていきたいと考えます。どうぞ、よろしく申し上げます。